



学校教育目標

自ら学ぶ子



「学び続ける子」「共に生きる子」「健やかな子」「浦島の子」「未来を創る子」

1月号 令和6年1月12日

「人間万事塞翁が馬」

校長 藁科 直希

「人間万事塞翁が馬って言うから、あなたがやりたいようにやればいいよ。応援するから。」

私が大学受験に失敗し、浪人することが決まった時に、母からかけられた言葉です。「人間万事塞翁が馬」というのは、中国の故事に由来する言葉です。「人生における幸、不幸は予測しがたいということ。幸せが不幸に、不幸が幸せにいつ変わるかわからないのだから、簡単に喜んだり悲しんだりするべきではない」という教えとして使われています。

私は、幼い頃から3歳上の兄の背中を追いかけ、勝手に兄と比べて劣等感を抱いていました。多くの失敗や挫折の経験もしてきました。中学生時代には、大切な陸上のリレーの大会で0.1秒差で負けて、仲間とともに悔し涙を流しました。その悔しさは、30年以上たった今でも昨日のこのように思い出されます。また、浪人時代、同級生たちが楽しい大学生活を送っている一方で、自分は受かるという保証のない中で、1年間大学受験に向けて勉強したのは、本当に辛かったです。さらに、就職では、小学校の教員採用試験に1度で合格することができませんでした。2年間、高校の国語の教員として過ごしました。そして、順調に進んだ人と比べて3年、時間はかかりましたが、幼い頃からの夢であった小学校の教員になることができました。小学校の教員になってからも、時には、仕事のことで悩んだり、仕事と子育てとの両立で思い通りにならなくて苦しんだりしたこともありました。それでも続けてこれたのは、学生時代に負けて悔しい思いをしたり、不安な中で1年間浪人生活を送ったりして精神的に鍛えられたからだと思います。また、浪人や高校の教員をしたからこそ出会うことができたかけがえのない人もたくさんいます。浦島小に関わる皆さんと出会えたのも3年間の回り道をしたからです。挫折を味わった時には、「なんて自分は不幸なんだ」とか、遠回りしたように思えても、あとから思い返すと自分を成長させてくれた貴重な経験、幸せを運んでくれた大切な時間だったと思えてきます。

子どもたちに、「夢や希望は絶対に叶う」と軽々しく言うことはできません。しかし、夢や希望をもたなければ、そもそも叶えることはできませんし、叶えるための努力をしなければ道は開けてきません。自分の経験から「失敗や回り道をしても大丈夫。人と比べなくていいんだよ」ということを折をみて伝えていきます。子どもたちには、苦しいことや辛いことに出会ったとき、それが自分を成長させてくれるチャンスだと思い、粘り強く努力を重ね、誰かの力を借りながらもなんとか乗り越えていく力を身に付けてほしいと願っています。子どもたちが安心して何度でもチャレンジができ、失敗が許される学校や社会でありたいものです。そして、子どもたちの失敗やつまずきを温かく受け入れ、寄り添い、タイミングを見てそっと背中を押すことのできる大人でありたいと思います。

辰年が皆様にとって、天高く力強く昇っていく辰のように飛躍する幸せな年となるようお祈りいたします。子どもたちとともに、通常の学校生活を送ることのできる幸せをかみしめながら、日々の教育活動に取り組んでまいります。本年もよろしくお願ひいたします。